



平成 28 年度 オリンピック・パラリンピック教育事業
推進校実施報告書

- 1 学校名 : 岩手県立盛岡南高等学校
- 2 実施日時 : 2017 (平成 29) 年 2 月 2 日 (木)
- 3 対象 : 体育科・普通科体育コース生徒 164 名
- 4 派遣オリンピック : 千田健太さん (フェンシング ロンドンオリンピック団体 銀メダリスト)
- 5 授業内容 : 講演・実技

2017 (平成 29) 年 2 月 2 日に、岩手県立盛岡南高等学校に、ロンドンオリンピック (2012 年) フェンシング男子フルーレ団体 銀メダリストの千田健太さんをお招きし、ご講演ならびに実技体験を実施していただきました。

はじめに千田さんは、高校生が普段あまり触れることのないフェンシング競技について、フルーレ、エペ、サーブルの 3 種目があることやそれらのルール、具体的な攻防の展開の仕方、各種目の醍醐味について映像を交えて詳しくご説明くださいました。

千田さんは、中学校の時にフェンシングをはじめたものの、その時には自分が何に向いていて、どうなりたいかという具体的な目標があるわけではなかったと言います。しかし、負けず嫌いな性格のため、とにかく周りの選手よりも強くなりた一心で練習に励み、たった 3 人しかいないフェンシング部に所属していた高校時代も、21 歳で代表入りを果たしてからも、練習時間外に個人で練習をするなど、人一倍努力をしていたとお話しされました。

その後、北京オリンピック (2008 年) での 2 回戦敗退の経験を経て、自身の課題であるメンタルコントロールのトレーニングをしたり、小柄な体格を活かし、相手との距離に応じた技の習得をはかるなど、ロンドンオリンピックに向けて順調に準備を進めていた中で、故郷の気仙沼市が東日本大震災の被害を受けたと言います。この時、千田さんは故郷が被災する中で自分がスポーツをしていて良いのか、との思いに駆られ、辛い日々を過ごしていたそうですが、家族やコーチの支えを受けて、再びロンドンに向けて立ち上がることができたと振り返りました。こうした経緯を経て、ロンドンオリンピックの団体戦ではそれまでで最高のパフォーマンスを発揮して銀メダルを獲得した後、故郷の気仙沼で凱旋パレードを行った際には、集まった多くの人たちの笑顔を見て、震災があったものの、スポーツの力で元気を与えることができ本当に良かったと思ったと言われました。

最後に千田さんは、勝ち負けも、うまくいかない時もあるのがスポーツ、常に良い時があるわけではないが、その一つ一つの勝ち負けを次につなげて成長していくことこそが本当に大事なことなのだと、高校生に向けてメッセージを伝えられました。

6 授業の様子



フェンシングのルール等も交えてご自身の経験についてご講演された千田健太さん
講演では、競技用の剣やロンドンオリンピックの銀メダルも回覧させていただきました



実技体験では、フェンシングの基本動作の練習から、テニスボールを使った攻防の練習、
また、練習用の防具や剣を使った試合形式の体験などを行いました。
千田さんご自身も生徒の代表と試合形式で実技を行うなど、生徒ははじめて
フェンシング競技やオリンピックのパフォーマンスに触れ、大いに盛り上がりました。